

第3回・第4回有識者懇談会における主な意見について

| 項目 | 内容 ※③は第3回の有識者懇談会での意見、④は第4回の有識者懇談会での意見を示す。 | 備考 | |
|-------------------|---|---|--|
| 公立大学の全体像について | <ol style="list-style-type: none"> 1 旭川大学の回答文書には、公立化に当たっての理念がない。③ 2 まずはどういう大学をつくりたいかを考えるべきである。③ 3 建学の理念やミッションなど、どんな人材を育成するのがとても重要で、そこをまず固める必要があり、長期的ビジョンをもってミッションを考えるべきである。④ 4 今後の少子化の影響を踏まえると、長期的な将来構想も必要である。③ 5 地域のことを突き詰めていくと必ず世界に通じる。地域課題は世界中に共通しているものがあり、必要なのは、現状を捉える力、分析をする力、地域の力を上手く活用する力で、地域で培われたものが世界に通用すると思うので、そうした力を身に付けることが大事である。③ 6 地域の基幹産業との関係も考える必要がある。③ 7 地域の企業と大学との関係で必要な人材を育成し、就職させるようなことを考える必要がある。③ 8 農業、大雪山など旭川周辺における地理的、歴史的なものを考慮する必要がある。③ 9 旭川地域に公立大学をつくるという視点が大事で、北海道の木材をどう使うか、あるいは農産物をどう高度化するのかなど、地域が持っている自然環境を強く意識して考えないといけないと思う。④ 10 市民の会案にある建学の精神はまさに、文科省が言うところの知識基盤社会に必要とされる人材を育成する内容となっており、これが基本となると思う。④ 11 オンラインの大学を目指す海外から学生は集まる。③ 12 学生の確保という視点だけではなく、海外の留学生が学びたいと思うような大学を目指す必要がある。③ 13 公立大学の性質上、地域貢献も必要だが、国から交付税が入ることを考えると、国全体への貢献も考えていいと思う。③ 14 魅力ある大学である必要があり、充足率100%未満を考えることはあり得ない。③ 15 地元の学生が入学しやすくなるような地域枠も考えられるのではないかと。③ 16 学生のためのカリキュラム、環境、教員という視点が重要である。③ 17 国立大学においても改革が迫られている時代で、旭川大学もどう改革していくかという課題がある。④ 18 道内にある他の公立大学への影響についても考慮する必要がある。③ | <p><資料3での引用> 5, 9, 10, 11, 13</p> | |
| 学部、 学科の見直しについて | 経済学部について | <ol style="list-style-type: none"> 1 旭川大学の回答にある経済学部の見直し内容はかなり遅れているように見える。③ 2 経済学部はスクラップアンドビルドしなければならないのではないかと。③ 3 市内の企業の後継者を育てる機能だけではだめで、改めて考える必要がある。③ 4 経済学部の中にデザインを含めることはできない。経済は分析的要素が強く、デザインは創造である。③ 5 どのような社会を我々が構想するのか、どのような社会が望ましいものとして創るのかという意味で、社会科学系や経済学系が大学にないと社会全体としてどちらの方向に向かうかわからない。旭川にも社会科学系や経済学系の高等教育は必要である。④ 6 社会科学系についても、学生がまちに出て行ったり、地域の課題を考えたり、アクティブラーニングに力を入れるように、教育・研究も大きく変わりつつある。旭川大学も危機意識のもとで随分変わり得ると思う。④ | <p><資料3での引用> 4, 5, 6 (一部)</p> <p><資料4での引用> 2</p> |
| | 保健福祉学部について | <ol style="list-style-type: none"> 1 福祉については、地域で待遇改善をしながら必要な人材を育成させる視点が必要である。③ 2 福祉系については、専門学校等でも行っていることを考慮する必要がある。③ | <p><資料4での引用> 1, 2</p> |
| | 短期大学について | <ol style="list-style-type: none"> 1 将来を見据えて4年制大学に移行するのかわかるところを考えておく必要があるのではないかと。③ 2 短大の食物栄養、幼児教育、福祉は、デザインとの関係で活用できる要素がある。③ | <p><資料4での引用> 1, 2</p> |
| | その他 | <ol style="list-style-type: none"> 1 保健福祉学部の2学科が現在のままなのか、内容を変えるのか、また短大をどうするのかはものづくりデザイン学科のカリキュラムをより良い形に活かす意味でも検討する必要がある。④ | <p><資料4での引用> 1</p> |

| 項目 | | 内容 ※③は第3回の有識者懇談会での意見，④は第4回の有識者懇談会での意見を示す。 | 備考 |
|-------------------|---|---|---|
| イノベーションデザイン学部について | イノベーションデザイン学部について | <ul style="list-style-type: none"> 1 市の案であるイノベーションデザイン学部のカリキュラムは、創造能力開発、人間研究、文化研究、技術といった面が大変希薄だと思う。④ 2 宇都宮大学のような既存の学部や学科を地域などの視点を取り入れながら改組している例は参考になると思う。④ 3 ものづくりも大事だが、まちづくり、世の中づくりといったことを考えると、創造力と連携する力を育てていく分野というのは良いと思う。④ | <p><資料3での引用> 3 (一部)</p> <p><資料4での引用> 3</p> |
| | 地域ものづくりデザイン学部について | <ul style="list-style-type: none"> 1 ものづくり系で想定していたのは、世界をリードするものづくりデザイン教育である。③ 2 旭川大学の公立化を考えると、新学部を設置することだけでなく、既存の学部の見直しを行うことも考える必要があると思う。④ 3 旭川は家具分野で世界レベルであり、ものづくりデザイン系の教員は確実に確保できる。④ | <資料4での引用> 2 |
| | その他 | <ul style="list-style-type: none"> 1 1学部2学科制にして、一方を市民の会の案にあるような地域ものづくりデザイン学科とし、もう一方を市の案にあるような社会科学的に地域をデザインするような学科とする考え方もあると思う。④ 2 社会福祉系と経済・ものづくり系の2学部体制にするか、社会福祉系と経済系、ものづくり系の3学部体制にするという考え方があると思う。④ 3 新しい「もの」や「こと」を世に出すことで、新しいニーズが生み出されるという発想を大学で教えるということは挑戦的であるが、高校なども自分で考える力を教えるというふうに変まっていく中で、その上にある大学は世の中を創造していくというところに目的を置くというのは当然だと思う。④ 4 技術やつくり方がわかってなければ、簡単にものづくりのマネジメントを学ぶことはできない。デザイン教育における体験は技術教育だけでなく、考え、手を動かし、相手と向き合い、解決策を出していくこと、そうした経験がものづくりデザイン創造教育の価値である。④ 5 イノベーションデザインを学びに旭川に来たいという学びの場をつくり、日本や世界で活躍する人材を育てていく場にしてもらいたい。旭川で学んだ者が必ずしも旭川に残らなくても良いと思う。④ 6 ものづくりデザイン分野で空白なのが農業、農業デザインを教育研究テーマに掲げると日本初となる。④ 7 「デザイン」、「ものづくり」と「経済」、「保健福祉」とどう絡んでいくかについて、大きな改革、再編の中で、旭川大学も一緒に考えていく必要がある、小手先ではなく、長期的な視点で、文理融合やグローバル人材の育成などの考えを入れながら経済、社会福祉、ものづくりの分野を統合させた形でどのようにデザインしていくかが必要だと思う。④ | <p><資料3での引用> 3</p> <p><資料4での引用> 1, 2, 3, 4, 7</p> |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> 1 地域には理学部や英語、コミュニケーション系の学部を志向する学生がいる。③ 2 実務的な教員が教えることも考えられる。③ 3 市外から学生が集まり、旭川に定着することが望ましい。③ 4 旭川大学はこれまでダム機能を果たしてきたと言える。③ | | |